



六郷 ろくごう

六郷小学校

H30. 5. 25

No. 8

「主体性」を育てる児童集会

昨年度から、児童集会のゲームに関しては、各学年からゲームの内容を提案してもらい、当日のゲームの進行・説明も各学年で行って来ました。つまり、何でも6年生が行うのではなく、すべての学年の子ども達が全校の前で活躍できるようにしたのです。昨年度の様子を見てみると、たとえ1・2年生でもはつらつと全校の前で話すことができ、とても満足していました。

今年度の1回目は4年生が担当でした。全校が楽しめる集会にしたいと、話し合っって昨年好評だった「風船バレー」を行うことに決めました。下の写真にあるように、学年の代表の子どもがゲームの説明をし、実際にやり方を4年生の子ども達がやって見せたりしました。最初の児童集会でしたが、4年生の説明が上手で、しかも大きな声で元気に行ってくれたので、とても分かりやすい説明でした。4年生はさらに集会を盛り上げようと、「恋ダンス」を全校でやろうと決め、踊りができる何人かが全校の前で踊ってくれました。そのために、休み時間などで練習を繰り返していました。



4年生代表の説明の様子



集会が終わってから4年生全員で反省会



たて割班で楽しんだ「風船バレー」



最後に「恋ダンス」で大盛り上がり

運動会でもお伝えしたように、「楽しい集会」にすることは簡単です。しかし大事なのは、その行事を通して「児童に力が育ったのか」という点です。4年生は話し合ったり、代表の子どもが練習を繰り返したりする中で、本番で堂々と説明できる力を得る事ができました。上の写真にあるように、そういった取組を行ったからこそ、反省会が必要でした。子ども達からは、自分たちのがんばりを讃える発言がたくさん出されました。

「ロング昼休み」から見えること

今年も「ロング昼休み」を行っています。昨年度は数回のお試しでしたが、今年度からは「毎週木曜日がロング昼休み」です。清掃をなくして、40分間の休み時間となります。長い休み時間だからこそ、普段できないことに挑戦できますし、ミニイベントも開催できます。今年度はそれに合わせて、新しく「集会委員会」も立ち上げました。

集会委員会は、ロング昼休みにミニイベントを開催したり、運動会の司会も担当したりしました。新しく今年度から行われる「音楽集会」も司会を行います。

さて、毎週実施している「ロング昼休み」ですが、子ども達には大好評です。その理由は次のとおりです。

- 40分という長い休み時間であること。(そういう時間を確保している学校はあまりありません。)
- 普段できない遊びをしたり、短い休み時間ではなかなか行けない場所にも行けたりする。
- そして、何と言っても「40分、自由であること」

先日のロング昼休みの様子



1年生は粘土遊び



音楽部の子どもは自主練習



オルガンに触れてみました



3年生は係活動に夢中



6年生が1年生と一緒に



百人一首クラブは廊下で



一緒に読書したり、図書室の利用者も増加



「40分という自由な時間」があれば、子ども達はいろいろな事に取り組んでいることが分かりました。1年生も40分だから、粘土遊びを許可してもらえました。6年生も時間があるので、1年生の教室に来て一緒に遊んでくれました。もちろん、体育館やグラウンドで精一杯遊んでいる子ども達もたくさんいます。しかし、必ずしもそうではなく、部活動の自主練習をしたり、係の仕事に取り組んだり、遊び以外に時間を使っている子ども達もたくさんいるのです。これから毎週行われる「ロング昼休み」、子ども達がどんな活動をして、どんなつながりを作ってくれるか楽しみです。

そして、この時間が将来、地域の方々との触れ合いの場になれば、どんなに素晴らしいだろうかと夢を描いています。

5年生の運動会の振り返り

5年松組

高学年としての自分は、6年生がいない時、5年生のみんなで応援や旗をふったりしました。色別対こうリレーでは先生に言われなくても、自分で動くことができたのが「成長した自分」だと思いました。6年生を見て、ぱっぱっぱっと行動して、先生に言われなくてもすぐに行動して、いっしょうけんめい進んで行動していることをわかったことが「学んだ自分」だと思いました。

5年松組

高学年としては、1～4年生の人たちを進んでまとめたり、1～4年生の見本になれたかなと思いました。応えん合戦も、1～4年生がふざけたりしてたいへんだっただけ、本番はちゃんとやってくれて、5・6年の思いが伝わったのかなと思いました。特に1年生の 君です、練習では遊びに行ってしまうと、本番だいじょうぶかなと思っていたけど、本番はだれよりも負けない大声でがんばってくれました。これからの自分は、どこかの組をまとめたりしなければいけないけど、5年生で学んだことを生かして、みんなを引っばって、今年みたいに優勝してみんなで喜びたいです。

5年竹組

ぼくは高学年として、6年生がいなくなった時、前に出て大きい声で応えんできて良かったし、ふざける人や遊んでいる人を注意できました。6年生がいない時、1～4年生をまとめたり、みんなで応えんしたことや、6年生がいる時に6年生をサポートすることができ、成長できたと思いました。応えんのならば方やつな引きのならば方になる時、6年生が先になってならばせていて、来年はぼくもやるんだなと思い、学びました。これからもっと声を出して、今年6年生がやっていたことを、来年自分が先になってやりたいなと感じました。

5年生は来年のために、6年生の動きを良く見て、自分のやれる部分は高学年の一人として実行してくれていたようです。こうやって6年生のがんばりが5年生に引き継がれることがとても大事だと感じます。